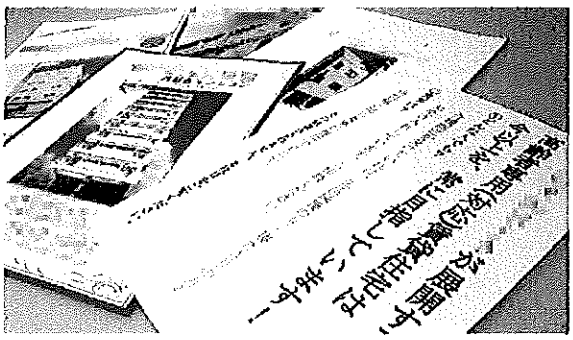
生活保護患者を争奪

高齢者賃貸マンション

介護報酬狙い

病院にリベートも

大阪府内の介護サービス付きの高齢者向け賃貸マンションで、入居者の獲得合戦が白熱している。主なターゲットは生活保護受給者。住宅扶助費の範囲内なら家賃が確実に得られ、介護サービス料も全額が公費で負担されるためで、入居者の多くは上限まで介護が組まれているという。入院中の受給者を入居者として確保しようと病院関係者にリベートが贈られるケースも多いとの証言もある一方、「契約した介護が受けられない」といった苦情も自治体に寄せられ、対応の検討も始まっている。



大阪市内の病院に届けられた高齢者マンションのパンフレット。チラシには「生活保護」の文字も（本文とは直接関係ありません）

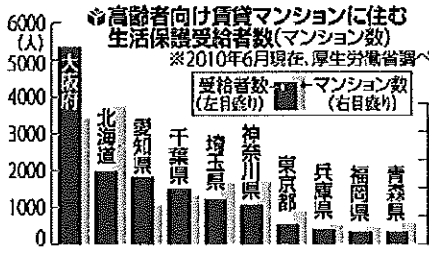
高齢者向け賃貸マンション　床の段差をなくしたり、手すりをつけたりして高齢者の入居を積極的に受け入れるマンションをいい、その多くは介護や医療サービスを備える。昨年10月の改正高齢者住まい法施行で、居室面積などの基準を満たせば「サービス付き高齢者向け住宅」として登録され、行政の立ち入り調査も可能になった。ただ未登録でも罰則はないため監視が行き届かず、「法定外施設」とも呼ばれる。

厚生労働省によると、マンションは2010年6月現在、全国に約1300か所。府内には224か所で、1年半に58か所も増えた。背景には、診療報酬削減のため、行政が病院側に長期入院者の退院を強く促し、マンションがその受け皿となったことがある。

10万円が相場

府内の複数の業者によると、だぶつく部屋を埋めようと各業者はパンフレットやチラシを病院や役所などで配ってPR。特に受給者の獲得競争は熾烈で、入院中の受給者を確保するため、退院後の行き先決定に権限を持つ病院職員にリベートを贈る業者も多いという。

ある業者は「一人につき5万円が相場だったが、1、2年前から10万円に上がった。病院職員が求めてくることが多い」と話し、別の業者は「受給者が入居する際に公費から支払われる敷金・礼金代が原資」と証言。府内の医療関係者は「業者に自分の口座を指定し、年100万～300万円を稼ぐ病院職員もいる」と言う。



寝たきり高収益

受給者確保に業者が血眼になる理由は、介護サービス料収入にある。

厚労省によると、10年6月現在、マンションに入居する受給者は全国で1万6614人。このうち介護サービスを受けるのは7705人と、半数近くを占める。

介護の利用限度額は計7段階の要介護度、要支援度に応じ、月約5万～38万円。その1割は自己負担が原則だが、受給者については、介護扶助費として全額が公費から支払われる。

受給者の利用額を昨年10月現在の公表資料から試算すると、大阪市は一人平均20万8000円で非受給者（14万6000円）の1・4倍。大阪府東大阪市でも1・8倍、兵庫県尼崎市は1・6倍だ。府内の業者は「マンションで暮らす受給者の介護サービス料も、たいていい限度額近くまで詰め込まれている」と話す。

別の業者はこう言い切る。「狙い目は寝たきり。介護報酬が高く、不満も言わない。家賃に食事、介護、医師の訪問診療と入居者一人で月100万円が動く。

「介護時間 契約より短い」

獲得合戦の陰で、介護サービスを巡るトラブルも表面化してきている。

兵庫県尼崎市はマンション専従のケースワーカーを置き、昨年から本格的な実態調査を始めた。面談した受給者からは「介護時間が契約より短い」「不要な介護を受けている」などの声が寄せられ、その都度、適切な介護を行うよう業者を指導しているという。

大阪府泉大津市でも昨年頃から「広告にあった介護が受けられない」といった苦情がしばしば寄せられている。同市は主に限度額近くの介護を組む業者に事情を聞き、改善を指導しているが、担当者は「必要な介護と主張する業者も多く、なかなか難しい」とこぼす。

また大阪市のケースワーカーは、担当する5人の受給者のうち4人が、退院後1か月以内に病状悪化で再入院を余儀なくされたと明かし、「病院側の退院時期の判断が間違っていたのでは」と疑問を投げかけた。

行政がチェックを

山田壮志郎・日本福祉大准教授（公的扶助論）の話「ほかに身寄りがないという立場の弱さに加え、高齢になると体力、思考力の衰えから訴える力も弱くなり、運営に問題があっても発覚しにくい。介護サービスを悪用した『囲い込み』になっていないか、行政のチェックが必要だ」

将棋の里見香奈女流三冠(19)は7日、大阪市福島区の関西将棋会館で行われたプロ棋士養成機関「奨励会」の対局で白星を挙げ、同日付で初段に昇格。女性初の有段者となった。

史上初の女性有段者となり、笑顔を見せる里見香奈女流三冠（7日午後、大阪市福島区で）＝伊田直也撮影

男女同条件で競う現行制度ではこれまで一級が最高位。関東奨励会では、昨年12月に初代女流王座となった加藤桃子さん(16)、伊藤沙恵さん(18)が一級で活躍しており、東西の昇段争いとしても注目されていた。

里見三冠は島根県出雲市出身。鋭い攻めから「出雲のイナズマ」と呼ばれてき